

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	市民文化スポーツ局文化部文化企画課
評価対象期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日

1 指定概要

施設概要	名 称	①北九州芸術劇場 ②北九州市立響ホール	施設類型	目的・機能
	所在地	①北九州市小倉北区室町一丁目1番1号 ②北九州市八幡東区平野一丁目1番1号	I	— ④
	設置目的	①演劇を主とした舞台芸術の制作及び公演、当該舞台芸術を担う人材の育成等を行うとともに、市民自らが演劇、音楽等の活動をする場を提供することにより、優れた芸術文化を市民が享受する機会の拡大及び新たな芸術文化の創造に資する。 ②音楽を主とした公演、音楽を担う人材の育成等を行うとともに、市民自らが音楽等の活動をする場を提供することにより、優れた芸術文化を市民が享受する機会の拡大及び新たな芸術文化の創造に資する。		
利用料金制		<input checked="" type="checkbox"/> 非利用料金制 ・ <input type="checkbox"/> 一部利用料金制 ・ <input type="checkbox"/> 完全利用料金制 <input type="checkbox"/> インセンティブ制 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> ペナルティ制 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無		
指定管理者	名 称	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団		
	所在地	北九州市小倉北区室町一丁目1番1号		
指定管理業務の内容		①・施設の管理運営 ・自主事業（舞台芸術の制作及び公演、当該舞台芸術を担う人材の育成等を行う）の実施 ・貸館業務 ・広報及び営業業務 ・芸術文化情報センターの運営 ②・施設の管理運営 ・響ホール事業の実施 ・貸館業務 ・広報及び営業業務		
指定期間		平成31年4月1日～令和6年3月31日		

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント		配点	評価 レベル	得点																																																																																																				
1	施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み	50		43																																																																																																				
	<p>① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。</p> <p>② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。</p> <p>③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。</p> <p>④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。</p>	35	4	28																																																																																																				
<p>[評価の理由、要因・原因分析]</p> <p>【北九州芸術劇場】</p> <p>施設の管理運営は適切に行われている。また、北九州芸術劇場（以下「劇場」という。）の充実した設備を活用して優れた舞台芸術を多くの市民が享受する機会を提供した。利用件数及び稼働率ともに目標をほぼ上回っており、利用件数は前年度の実績を上回った。</p> <p>2月下旬以降の新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴うイベント自粛が相次ぐ中、目標数値を達成したことは評価できる。</p> <p>なお、（一財）地域創造の平成26年度調査によると、舞台芸術の公演等を主用途とするホールの全国平均稼働率は58.8%となっており、政令市の平均稼働率では70.3%となっている。劇場の各ホールの稼働率は、これをほぼ上回っており、安定した高い稼働率を保っていることが評価できる。</p> <p>《利用件数・稼働率》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">目標・実績</th> <th colspan="2">大ホール</th> <th colspan="2">中劇場</th> <th colspan="2">小劇場</th> <th rowspan="2">利用件数 合計</th> </tr> <tr> <th>利用件数</th> <th>稼働率</th> <th>利用件数</th> <th>稼働率</th> <th>利用件数</th> <th>稼働率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">27</td> <td>目標</td> <td>538</td> <td>81%</td> <td>561</td> <td>79%</td> <td>608</td> <td>81%</td> <td>1,707</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>589</td> <td>79%</td> <td>601</td> <td>78%</td> <td>634</td> <td>85%</td> <td>1,824</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">28</td> <td>目標</td> <td>538</td> <td>81%</td> <td>561</td> <td>79%</td> <td>608</td> <td>81%</td> <td>1,707</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>563</td> <td>77%</td> <td>465</td> <td>70%</td> <td>648</td> <td>86%</td> <td>1,676</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">29</td> <td>目標</td> <td>554</td> <td>84%</td> <td>544</td> <td>79%</td> <td>600</td> <td>83%</td> <td>1,698</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>539</td> <td>80%</td> <td>532</td> <td>72%</td> <td>570</td> <td>84%</td> <td>1,641</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">30</td> <td>目標</td> <td>550</td> <td>83%</td> <td>573</td> <td>81%</td> <td>620</td> <td>83%</td> <td>1,743</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>494</td> <td>85%</td> <td>466</td> <td>77%</td> <td>517</td> <td>89%</td> <td>1,477</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>目標</td> <td>500</td> <td>75%</td> <td>500</td> <td>70%</td> <td>470</td> <td>80%</td> <td>1,470</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>538</td> <td>76%</td> <td>510</td> <td>70%</td> <td>585</td> <td>88%</td> <td>1,633</td> </tr> </tbody> </table>					年度	目標・実績	大ホール		中劇場		小劇場		利用件数 合計	利用件数	稼働率	利用件数	稼働率	利用件数	稼働率	27	目標	538	81%	561	79%	608	81%	1,707	実績	589	79%	601	78%	634	85%	1,824	28	目標	538	81%	561	79%	608	81%	1,707	実績	563	77%	465	70%	648	86%	1,676	29	目標	554	84%	544	79%	600	83%	1,698	実績	539	80%	532	72%	570	84%	1,641	30	目標	550	83%	573	81%	620	83%	1,743	実績	494	85%	466	77%	517	89%	1,477	1	目標	500	75%	500	70%	470	80%	1,470	実績	538	76%	510	70%	585	88%	1,633
年度	目標・実績	大ホール		中劇場			小劇場		利用件数 合計																																																																																															
		利用件数	稼働率	利用件数	稼働率	利用件数	稼働率																																																																																																	
27	目標	538	81%	561	79%	608	81%	1,707																																																																																																
	実績	589	79%	601	78%	634	85%	1,824																																																																																																
28	目標	538	81%	561	79%	608	81%	1,707																																																																																																
	実績	563	77%	465	70%	648	86%	1,676																																																																																																
29	目標	554	84%	544	79%	600	83%	1,698																																																																																																
	実績	539	80%	532	72%	570	84%	1,641																																																																																																
30	目標	550	83%	573	81%	620	83%	1,743																																																																																																
	実績	494	85%	466	77%	517	89%	1,477																																																																																																
1	目標	500	75%	500	70%	470	80%	1,470																																																																																																
	実績	538	76%	510	70%	585	88%	1,633																																																																																																

北九州芸術劇場（以下「劇場」という）は、4つのコンセプト「創る（レベルの高い作品創作と発信）」「育つ（舞台芸術を核に地域の人々と交流し、ともに育つ）」「観る（暮らしを彩る多彩な舞台芸術を提供）」「支える（地域の創造力を高めるための支援）」に基づき、文化芸術の振興のために各種事業を展開し、本市の文化施策に貢献した。

平成23年度に文化庁の「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」における「重点支援劇場」として採択（平成27年度まで）された後も、平成28年度に再び特別支援事業として採択された。また、平成30年度には、我が国の文化芸術をさらに強化発展させるための「文化庁 劇場・音楽堂等機能強化推進事業（総合支援事業）」に採択される等、その取り組みは全国的に高く評価されていると言える。

平成31年度においても、劇場オリジナル作品や話題性のある良質な作品等を通じて、優れた舞台芸術の創造・発信や地域の賑わいづくり、地域の文化・芸術を担う人材の育成等に努めている。自主事業（公演事業）全体の観客入場率も2年ぶりに90%となり、目標を上回る結果となった。今後も入場者の増加に向けた取り組みを進めながら、引き続き地域の演劇文化を牽引するリーダー的な役割を担いつつ、さらなる演劇文化の振興に向けた取り組みを進めてほしい。

一方で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、特に3月は予定していた公演が次々に中止や延期に追い込まれる等、舞台芸術を取り巻く環境は現在も厳しいものとなっている。今後は、劇場・音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインをはじめとした感染防止策を図りながら、舞台芸術の鑑賞の再開に向けて取り組んでいってほしい。

【自主事業（公演事業）の入場率】

（単位：％）

年 度	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1
目 標	9 1				8 7
実 績	8 7	8 5	9 0	8 8	9 0

○「創る」

劇場が培ってきたノウハウやネットワーク等を活用し、北九州発のオリジナリティある作品創りを行った。

北九州芸術劇場クリエーション・シリーズ「まつわる紐、ほどけば風」では、劇場とアーティストとがタッグを組み、地域の人々や表現者との交流などを経て、2年をかけ劇場オリジナル作品を創作・上演した。本市以外にも兵庫県・伊丹市での公演を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。

また、ダンスクリエーション「ギミック」は、平成29年度のダンサー育成企画「ギミック」をベースに、平成30年度のワークショップ等を経て、新演出により上演したものである。本市以外にも、宮崎や熊本で上演する等、市外へのブランドの発信に大きく寄与した。

これら独創性のある取り組みにより、地域資源の発掘と北九州シティブランドの発信に貢献している。

○「育つ」

ワークショップやアウトリーチ等を通じて、地域の文化拠点として、地域の未来を担う人材の育成等を行った。

小学生を対象とした「夏休み！子どもの劇場体験」や小中学校等へのアウトリーチ「キタQアーティストふれあいプログラム」などの子ども向けの取り組みや、北九州市身体障害者福祉協会アートセンターとの連携によるレインボードロップスダンス公演等、様々な取り組みが行われた。文化の未来を担う人材育成はもとより、地域課題の解決のためにも重要な取組であると言える。

また、「大学演劇ラボ」では、若手演劇人を主体に演劇ワークショップや戯曲講座等を実施する等、次世代の人材育成にも取り組み、地域の拠点劇場としての役割は高まっているものと思われる。

○「観る」

「NODA・MAP『Q：A N i g h t A t T h e K a b u k i』」や、瑛太や松たか子ら豪華俳優陣による「パルコ・プロデュース『世界は一人』」、松尾スズキプロデュース東京成人演劇部『命、ギガ長ス』」など、話題性のある作品を含め幅広いラインナップで上演した。特に、「NODA・MAP『Q：A N i g h t A t T h e K a b u k i』」は97%という極めて高い入場率を達成し、入場者数も7,000名を数える等、多くの人々が劇場に足を運ぶ機会となり、街のにぎわいづくりに大きく寄与している。

また、ダンスの分野では、大人も子どもも楽しめる「新国立劇場2018/2019シーズンダンス 森山開次『N I N J A』」や「ダンスダイブウィーク」におけるリバーウォークや映画館との連携等、さまざまなアプローチでコンテンポラリーダンスの普及啓発を図っている。

その他にも、言葉が分からなくても楽しめる小さな子どもたち（0～3歳程度）を対象とした作品や、東京のみならず地元を拠点に活動する劇団の公演等、幅広いラインナップを揃えており、新たな観客づくりにも努めながら、市民に良質な公演を提供している。

○「支える」

九州各地の劇団が参加し、限られた上演時間や演者数の中でその内容を競い合う「劇トツ×20分」等、次世代の芸術文化を担う地域のアーティストや劇団等の作品発表等の環境づくりを行った。

その結果、施設稼働率は全国の平均稼働率を上回る水準を維持しており、かつ利用者のアンケート結果も高く（多くの項目で満足度95%以上）、利用者からの好評を得ている。

○ 広報戦略

多彩な事業展開を広報する中で得られたつながりをより強固なものに発展させ、劇場運営への理解と支援が得られるよう、「劇場のブランディング」を図った。また、SNSなどを活用し多種多様な世代・国籍の人々と出会い、つながる広報に努めた。

- ・「情報誌Q」のリニューアルを行い、読者層の拡大と芸術文化のある日常を提案する「創客」に取り組んだ。
- ・情報発信ツールとして「LINE」を導入した。
- ・アーティストの声を直接届け、劇場との距離を近づける動画配信環境整備を行った。

施設の利用者の増加や利便性を高めるため、以下の取組みを行った。

○ 利用者の増加・新規利用者の獲得に向けた取組み

- ・施設利用時の申請手続き等を見直し、利用者の負担を軽減
- ・使用料等の制度改正に伴う利用者への説明やフォローアップを実施
- ・利用者の利便性向上等を目的としたプレイガイドとライブラリーの統合
- ・ライブラリーの所蔵図書案内等の再検討
- ・事前の施設見学の受け入れや、施設の特徴等の情報提供や具体的説明など、施設利用における安全対策の実施
- ・職員の接客研修等の実施によるホスピタリティ向上
- ・催事後のフィードバックやアンケートの活用により職員のノウハウ共有と蓄積を行い、質の高いサービスを提供

○ 鑑賞する機会を増やす取組み

- ・「チケットクラブQ」会員制度の運営

劇場と響ホールを併せた会員制度を運営し、チケット先行予約・ポイント積立による割引や公演情報提供などの特典を提供することで、リピーター率向上を図った。劇場と響ホールで相互に積立ポイントを利用できるなど、新たな客層の開拓にもつなげた。令和元年度はこの制度の見直しを行い、リピーターや新規顧客などそれぞれに合わせた特徴を持った制度にリニューアルした。(令和2年度から実施)

響ホールと連携し、芸術文化分野での専門的な知識を有する人材育成や、地域における文化事業の創造と発展を促進した。また、ジャンルを横断した広報活動を通じ、市民が広く多様な芸術文化に触れる機会を提供した。

- ・相互的な制作ノウハウの共有やコーディネート力の養成を目的とした自主事業の人材交流
- ・情報誌「Q」及び公演情報リーフレットの共同発行によるコスト抑制と新規顧客の開拓
- ・防災・防犯などの危機管理や舞台の技術的対応など施設の管理運営に関するノウハウの共有

【響ホール】

施設の管理運営は適切に行われている。また、音楽専用ホールとしての特性を活かして音楽文化に親しむ機会を提供した。貸館事業の利用件数・稼働率はコロナウイルス感染症感染拡大に伴うイベント自粛が相次ぐ中、前年度を下回ったものの、目標値を超えた実績を挙げている。

《利用件数・稼働率》

年度	目標・実績	貸館事業の利用件数	稼働率
26	目標	452	58%
	実績	432	56%
27	目標	454	58%
	実績	435	56%
28	目標	456	58%
	実績	476	62%
29	目標	458	58%
	実績	541	68%
30	目標	458	58%
	実績	589	75%
1	目標	475	59%
	実績	497	63%

響ホールでは、「創る（音楽文化の創造と発信）」、「育つ（地域の人々とともに育つ）」、「聴く（暮らしを彩る多彩な音楽公演）」、「支える（市民の音楽活動の支援）」、「つながる（地域住民や関係団体等との交流・連携・協働による事業展開）」の5つをコンセプトとして、質の高い多くの事業を実施し、特に音楽分野において本市の文化振興を図った。

響ホール企画事業においては、国内外で活躍する著名な演奏家や子どもも楽しめるコンサート、演劇とクラシック音楽がコラボレーションした公演等、幅広いラインナップを揃えた。また、地域訪問コンサートの実施や他の文化施設との連携等、地域の音楽堂として、音楽文化の創造・発信やまちの賑わいづくりに積極的に取り組んでいる。加えて、文化庁の「平成31年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業」の「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」に採択される等、その取り組みは全国的にも評価されている。

自主事業の入場率は80.3%で、目標の67%を大きく上回る結果となったが、クラシック層の減少に加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、クラシック音楽を取り巻く状況は厳しい状況である。今後、公演内容や広報の充実とともに、適切な感染防止策を図りながら、引き続き目標値の達成に向け努めていきたい。

○創る（創造事業）

響ホール室内合奏団との共同で企画・制作する「響ホールフェスティバル」においては、語りと俳優・バレエダンサーによる創作バレエ「くるみ割り人形」の上演のほか、館内での楽器体験やライブイベントなど、音楽専用ホールに足を運んだことのない新たな客層の来場に取り組んだ。また、『フィガロの結婚』～フィアンセとIT社長、その妻と少年～では、オペラに演劇的要素を加え再構成した新たな舞台作品を創作・上演した。引き続き、新たな試みも含めて、音楽専用ホールとしての市外への情報発信に努めてほしい。

○育つ（育成事業）

公演へ招聘したアーティストが市内小学校や市民センター等に出向き、クラシック音楽等の芸術文化に直接触れる機会を届けるアウトリーチ事業（訪問コンサート）を市内 26 箇所で実施し、参加者は 1,476 人を数えた。子どもや高齢者等に対する教育的・福祉的効果に加え、響ホールの認知度の向上やクラシック音楽ファンの裾野拡大などに寄与する取り組みとして評価できる。

また、「全日本学生音楽コンクール」や「東京藝術大学・早期教育プロジェクト」の会場に選ばれていることや、青少年のためのヴァイオリンコンサートの開催等、子どもたちや若年層を対象にした音楽家の育成支援や響ホールからの情報発信の面で、とても大きな効果があったと言える。

さらに、響ホールの企画事業とは別に、北九州市少年少女合唱団や北九州市ジュニアオーケストラの育成・運営、合唱組曲「北九州」演奏会の開催等、地域の音楽文化の向上・普及啓発に向けた事業にも取り組んでいる。幅広い年代に対して様々な機会を提供しており、引き続き事業内容のさらなる充実を図っていただきたい。

○聴く（鑑賞事業）

平成 31 年度も、優れた音響を持つ音楽専用ホールとしての特性を活かし、クラシック音楽を中心とした質の高い演奏会が行われた。仲道郁代（ピアニスト）をはじめとした国内外で活躍する演奏家の招聘から、「0 歳からの親子で楽しむクラシックコンサート」等の子ども大人問わず誰もが楽しむことのできる公演まで、幅広い内容となっており、市民が優れた音楽を身近に感じる機会となった。

また、クラシック音楽にあまりなじみのない客層を対象として平日の昼間に開催しているワンコインコンサートでは、ハープやサクソ、チェロ、打楽器等、バラエティに富んだ内容で、新たな客層の開拓に取り組んでいる。今後は、当該事業の具体的な効果を検証しながら、引き続き入場者の増加に向けた取り組みに努めていただきたい。

○支える（支援事業・貸館事業）

地域の音楽堂として、北九州少年少女合唱祭やレディースコーラスフェスティバル、小中学校の合唱講習会の開催等を通じて、市民活動の発表の場の提供及び技術向上を図りながら、市民の音楽活動を支える取り組みを行った。

○つながる（交流・連携・協働事業）

「生で聴くのだめカンタービレの音楽会」の開催に併せた漫画ミュージアムでの企画展示コーナーの設置や、八幡図書館と連携した「朗読コンサート～きらめく音楽と言葉のしらべ」の開催、北九州市立大学の学生等との共同企画「プレママ・パパ&子育てママ・パパのための家族で楽しむすくすくコンサート」の開催等、芸術文化施設や教育機関等と交流・連携・協働しながら、様々な取り組みを行った。

貸館利用者（主催者）の増加や利便性を高めるため、以下の取り組みを行った。

- ・ブランケット、子ども用クッションの貸出（令和元年度より実施）
- ・個々の利用者の状況に合わせたきめ細かいサポート

- ・公演の広報、チケット販売などでの側面やアドバイスの実施
- ・抽選日以降の電話による仮押さえの受付サービスの提供
- ・ホール空き情報のインターネットでの閲覧提供
- ・リハーサル室、研修室の柔軟な貸出し
- ・関係団体への広報活動の強化
- ・閉館した八幡市民会館の代替施設として、音楽以外の催事のための音響設備や備品等の対応を行った。

来場者（観客）の増加や利便性の向上を図るため、以下の取り組みを行った。

- ・ホールへの案内表示の増設
- ・駐車場の一括前払制
- ・託児サービス
- ・JR 八幡駅から 15 分間隔で無料のシャトルバス「お迎えバス」を運行
- ・ブランケット、子ども用クッションの貸出

(2) 利用者の満足度			
① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。	15	5	15
② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。			
③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。			
④ 利用者への情報提供が十分になされたか。			
⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。			

[評価の理由、要因・原因分析]

【北九州芸術劇場】

《アンケート結果》

年度	総合評価（「満足層」達成率）		回収率
	目標	実績	
26	98%	95%	71%
27	97%	96%	69%
28	98%	97%	70%
29	98%	96%	68%
30	98%	97%	68%
1	97%	95%	65%

アンケートに「満足」あるいは「まあ満足」と回答した層を合わせた「満足層」の割合が、「開館時間」の項目を除いて95%以上と、利用者からは高い満足度を得ている。

回答内容を個別に見ると、「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がいよい」、「舞台設備・機器が充実している」という項目が特に評価が高く、その他の項目でも満足層が90%以上を占める。

また、「利用のきっかけ及び理由」という項目では、「前回利用してよかったため」と

いう回答が50%以上であったことから、リピーターが定着し、利用者から信頼されていることが窺える。

利用者の意見・苦情は、報告体制を整備し的確に把握しており、課題改善等に役立っている。自主事業においても観客や参加者を対象にアンケート調査を実施し、サービスや公演内容に関する満足度やニーズを把握している。

利用者への情報提供として、以下に取り組んだ。

○ 貸館利用者に対して

- ・施設の空き状況や舞台図面、施設利用料金や手続きの流れ、利用申請書など、施設を利用するにあたって必要なもののほとんどをデータ化し、ホームページで公開
- ・利用者と劇場スタッフによる事前打合せを綿密に行い、舞台技術面も含めた具体的な提案を行う。

○ 来場者に対して

- ・ホームページだけでなく、フェイスブックやツイッター、インスタグラムなど複数のメディア等による情報発信
- ・リバーウォーク北九州内の複数のビジョン、館内放送による適切な情報提供
- ・開演前における重要事項のアナウンス実施

インフォメーションやフロント、施設管理、技術、広報など役割に応じたスタッフの配置を適切に行うとともに、特に技術スタッフ、広報スタッフについてはその専門的知見を分かりやすく提供することに努めた。

【響ホール】

《アンケート結果》

年度	総合評価（「満足層」達成率）		回収率
	目標	実績	
26	95%	88%	48%
27	95%	100%	49%
28	95%	100%	51%
29	95%	100%	63%
30	95%	100%	62%
1	97%	100%	80%

アンケートに「満足」あるいは「まあ満足」と回答した層を合わせた「満足層」の割合が100%と高い。また、個別の設問において、再利用希望率が100%であることから、利用者から高い満足度を得ていると評価できる。

アンケートや電話・メールなどで利用者の声、地域的心声を把握し、組織全体で共有している。特に苦情・クレームは貴重な改善提案として受け止め、情報共有を行っている。対応についてはマニュアルを作成し、苦情・クレームに係る情報伝達ルートを整備するなどの対応は評価できる。

(1) 経費の低減等			
① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取り組みがなされ、その効果があったか。	20	3	12
② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。			
③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。			

[評価の理由、要因・原因分析]

【北九州芸術劇場】

《指定管理料》

(単位：千円)

	27年度	28年度	29年度	30年度	1年度
予算	929,641	922,941	922,941	908,571	908,152
決算	899,817	894,016	907,054	908,368	905,651

《光熱水費》

(単位：千円)

	27年度	28年度	29年度	30年度	1年度
予算	183,394	172,923	172,889	166,446	170,998
決算	172,074	164,673	170,077	169,631	173,219

《専用部の光熱水量(実績)》

	27年度	28年度	29年度	30年度	1年度
電気使用量 (kwh)	2,342,663	2,254,266	2,268,403	2,141,927	2,375,872
上下水道使用量(M3)	6,779	6,935	7,648	6,277	7,340
空調熱源使用量(MJ)	11,867,966	12,548,304	12,257,400	10,983,881	11,950,077

指定管理料は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う事業の中止などのため、前年比2,717千円減となった。また、光熱水費は日常の省エネに努めたものの、使用量ともに前年度を上回り、増加に転じた。

なお、劇場では経費低減のため、以下の取組みを行っている。

- ・ロビーや客席の照明、空調は、こまめにON/OFFを実施。
- ・部分空調ができる機能を最大限に活用し、無駄のないよう運用。

劇場は分散配置で共用と専用が複雑に入り組んでいるため、機械設備等のシステムが複雑である。このため、リバーウォーク北九州管理組合に施設管理を統合して再委託することにより、一元管理による経費低減と業務水準の確保を両立している。

概して効果的かつ効率的な執行がなされた。

【響ホール】

《指定管理料》

(単位：千円)

	27年度	28年度	29年度	30年度	1年度
予算	224,574	228,228	223,021	214,231	216,491
決算	205,690	208,293	204,060	210,335	208,648

《光熱水費》

(単位：千円)

	27年度	28年度	29年度	30年度	1年度
予算	11,610	13,625	13,625	13,625	13,625
決算	9,092	9,405	10,784	10,061	9,179

指定管理料は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う事業の中止などのため、前年度比1,687千円の減となったが、予算の範囲内で適切に執行している。

光熱水費については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う施設の臨時休館に伴い利用件数が減少したこともあるが、費用の抑制ができていることは評価できる。

概して効果的かつ効率的な執行がなされた。

(2) 収入の増加

① 収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。	10	3	6
-------------------------------------	----	---	---

[評価の理由、要因・原因分析]

【北九州芸術劇場】

《自主事業における収入状況（劇場）》

(単位：千円)

	年度	27	28	29	30	1
助成金等 外部資金	目標	40,014	47,165	66,113	37,720	48,165
	実績	47,377	41,384	70,786	41,385	39,746
チケット 収入等	目標	152,693	245,858	113,189	134,645	68,645
	実績	174,180	186,093	97,957	119,521	67,885

助成金等外部資金については、自主事業における収入のほか、文化庁や(一財)地域創造等の助成事業による資金調達に努めたものの、目標を8,419千円下回った。

チケット収入等については、安定した収入を確保するため、定期的に劇場に会場する顧客の獲得に努めるなどしたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う公演中止が相次ぎ、目標を760千円下回った。

【響ホール】

《自主事業における収入状況（劇場）》

(単位：千円)

	年度	27	28	29	30	1
助成金等	目標	6,700	3,883	8,757	20,957	16,965

外部資金	実績	6,248	3,000	6,300	19,607	15,554
チケット	目標	12,512	14,560	15,554	11,854	11,739
収入等	実績	10,743	11,661	12,024	7,659	10,250

地域の文化拠点としての機能を強化する取り組みが評価され、文化庁文化芸術振興費補助金の助成を受けている。助成金等外部資金については、昨年度と同程度ではあるものの、目標を1,411千円下回った

チケット収入については、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う公演中止が相次いだため、目標を下回ったものの、自主事業の観客増加の取り組みに努め、昨年度比2,591千円の増となった。

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取り組み	20		16
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況	10	3	6
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。			
② 職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。			
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。			
<p>[評価の理由、要因・原因分析]</p> <p>【北九州芸術劇場】</p> <p>事業の円滑な実施、安全対策や危機管理の推進及び多様な市民サービスを実現するため、舞台機構・音響・照明・舞台製作や劇場運営に関する専門的な知識をもった職員を配置し、適切な管理運営を行った。また、多様な雇用形態や稼働状況に適したシフト勤務を整え、効率的な人員配置に努めた。</p> <p>職員のスキルアップを図るため、接遇・ビジネスマナー研修・人権研修、車椅子利用者・視覚障害者サポート研修、フロントスタッフ研修、技術スタッフ研修、防災プロジェクトチームによる施設内防災設備講習のほか、全国公立文化施設協会や（一財）地域創造など、他団体の実施する研修事業にも積極的に参加するなど、職員の資質・能力の向上に努めた。</p> <p>地域で活動する多様な領域の団体・機関などとの協働事業として、「ひとまち+アーツ協働事業」を実施した。演劇・ダンス等のアーティストとともに就労支援の必要な若者や障害者福祉の分野のワークショップを実施し、成果発表・単独公演を行うなど、多くの連携・協働を行った。</p> <p>この他、北九州舞台芸術フェスティバル「北九州芸術工業地帯」（新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う発表公演中止）、ブルー・エゴナクといった北九州を拠点に全国展開している劇団や、次世代の芸術文化を担う地域のアーティストや劇団の作品作りを市民と協力して取り組んだことは評価できる。</p> <p>【響ホール】</p> <p>地域の音楽事業の経験・実績を有し、地元の音楽関係者とも関係が深く、地域と連携</p>			

して事業展開ができる人材を置くことで、音楽ホールという特性に適した人員配置を行った。また、響ホールが入居する国際村交流センター全体の維持管理に必要な人員を配置し、入居団体との連絡調整等を適切に行った。

接遇・ビジネスマナー研修や人権研修、車椅子利用者・視覚障害者サポート研修、認知症サポーター研修、フロントスタッフ研修などの内部研修のほか、全国公立文化施設協会や（一財）地域創造等、他団体の実施する研修事業についても年間の職員派遣計画を立てて積極的に参加した。また、避難訓練コンサートの実施により防災に係るスキルの向上を図った。

地元演奏家と連携し、小学校や市民センター等の市民に身近な場所で、質の高い音楽に直接触れる機会を提供する「響ホール地域訪問コンサート」や「やはたアートフォレスト」での施設連携として八幡図書館と連携した朗読コンサートの実施など、地域との関係構築に努めた。

市内唯一の音楽堂として、東京藝術大学音楽学部との共同事業として「早期教育プロジェクト」を実施した。音楽家を目指す子供たちへの同大学教授による指導や、学生によるランチタイムコンサートなど、世界を目指す若者のレベル向上の機会を提供するなど、ユニークな取り組みが評価できる。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

① 施設の利用者の個人情報保護するための対策が適切に実施されているか。	10	3	6
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。			
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。			
④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。			
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。			
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。			
⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。			

【評価の理由、要因・原因分析】

【北九州芸術劇場】

指定管理者が策定した「個人情報保護規定」及び「情報セキュリティポリシー」を遵守した結果、個人情報の漏洩は発生せず、個人情報の保護は適切に行われた。

特にデータ情報については、ファイアーウォール導入・USBメモリ等記憶媒体の運用ルール策定と遵守により、安全性の高い情報漏洩防止対策を実施した。

利用受付に当たっては、条例及び関連規定を遵守し、利用目的を確認して、公平・平等な取り扱いを行った。ホール施設の運用に際しては、指定管理者の自主事業と貸館事業のバランスを考慮し、適正な使用目的及び使用日数を遵守した。

使用料等の徴収及び市への納付については概ね適切に行われた。月例報告など各種報

告書も適切であった。

適正なスタッフの配置により、適切な舞台の安全管理に努めた。また、日常の気づきにより危険個所の明示や予防措置などを行った。特に劇場の舞台技術者は、舞台や舞台設備の使用に際して危険が予見される作業については、劇場技術管理者が直接行って、事故を予防した。

公演中に起きたヒヤリハット事例を、公演にかかわっていないスタッフとも情報共有するなど、事故防止に努めた。また、混雑による危険回避のため、フロントスタッフを中心に誘導や主催者へのアドバイスをを行った。

危機管理体制として、危機管理リーダーを配置し、事故や災害等の緊急時に素早く的確に劇場スタッフを指揮し、入館者の安全を確保できる体制を整えている。防犯対策については、楽屋等動線の安全対策として、1階警備室での有人受付、監視モニター、楽屋でのチェック機能により、安全確保、盗難防止に万全を期した。また、リバーウォーク北九州管理組合が設置する24時間対応の中央管理室での一体監視により、異常事態への迅速かつ強力な応援が可能な体制をとっている。

防災対策については、「安全・安心な劇場」となるため、すべての劇場関係者に普通救命講習の受講を義務付けている。また、AEDを適切な場所に配置して不測の事態に備え、救急車が到着するまでの的確な応急手当ができるようスキル獲得に努めるほか、救急車要請訓練を実施するなど、日頃から緊急時に対応できる体制を整えている。さらに、全職員からなる防災プロジェクトチームによる防火・防災活動を実施した。また、劇場は北九州市の避難場としては指定されていないが、災害発生時に帰宅困難となった来場者等の避難・待機場所としての受け入れを想定した検討を行っていることは評価できる。

【響ホール】

指定管理者が策定した「個人情報保護規定」及び「情報セキュリティポリシー」を遵守した結果、個人情報の漏洩は発生せず、個人情報の保護は適切に行われた。

特にデータ情報については、ファイアーウォール導入・USBメモリ等記憶媒体の運用ルール策定と遵守により、安全性の高い情報漏洩防止対策を実施した。

条例や関連規定を遵守するとともにマニュアルを整備し、これに従った。受付開始の際に、利用申込が重なった場合、第2希望、第3希望まで聞き、調整がつかない時には抽選を行うなど公平・平等な対応を図った。

使用料等の徴収及び市への納付について問題点はなかった。また、月例報告など各種報告書も適切であった。

舞台上での安全管理に向けて、常に技術スタッフが同行し、事故防止に努めた。

貸館利用者と打合せの際は、緊急時の避難誘導の経路や非常口について具体的に説明し、公演開催に当たっての安全の確保に努めた。また、車椅子・担架・AEDを適切に配置し、定期的に動作や状態の確認を行うほか、使用方法についての訓練を実施した。

防犯、防災対策として、防災・消防訓練、避難訓練コンサートの実施、収容人数の適正管理、危機管理体制マニュアルと、緊急時連絡網を整備・職員への周知を行っている。

また、響ホールは北九州市の避難場としては指定されていないが、災害発生時に帰宅困難となった来場者等の避難・待機場所としての受け入れを想定した検討を行っている

ことは評価できる。

【総合評価】

合計得点	73	評価ランク	B
【評価の理由】			
○ 北九州芸術劇場、響ホールともに、高い利用件数・稼働率を維持しているが、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う使用取りやめが相次いだにもかかわらず利用件数・稼働率のいずれについても、前年度より増加もしくは前年度並みを維持している点が評価できる。			
○ 施設の管理運営については、北九州芸術劇場、響ホールともに、専門スタッフによるきめ細かなサービス提供により、利用者の満足度の高い施設として定着している。また、自主事業の取り組み充実や外部資金の獲得など、財団の自立した施設運営が行われていることが評価できる。			
○ 北九州芸術劇場、響ホールともに「文化庁 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業」に採択されるなど、国内トップレベルの劇場・音楽堂として定着している点が高く評価できる。			
○ 継続的に地域の文化を牽引するリーダー的な役割を担い、優れた舞台芸術の創造・発信を行った点が大きい評価出来る。			
○ 地域や関係団体等との連携・協働の取組みとして、地元演奏家との連携や、東京藝術大学と協働するなど、多角的な活動が継続されている点が評価できる。			
○ 情報誌QやチケットクラブQのリニューアルなど、ニーズに合わせて柔軟に見直しを行っている点が評価できる。			

【北九州市指定管理者の評価に関する検討会議における意見】

適正に評価されている。

今後も、市と指定管理者と協同で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。